

第 10 回

熊本県議会

高速交通及び新幹線活用対策特別委員会会議記録

平成25年3月14日

開会中

場所 第3委員会室

第10回 熊本県議会高速交通及び新幹線活用対策特別委員会会議記録

平成25年3月14日（木曜日）

午前10時03分開議

午前11時37分閉会

本日の会議に付した事件

- 1 高速交通体系に関する件
- 2 熊本都市圏交通に関する件
- 3 九州新幹線鹿児島ルートを活用した地域振興に関する件
- 4 付託調査事件の閉会中の継続審査について
- 5 その他

出席委員（15人）

委員長 井手順雄
副委員長 池田和貴
委員 山本秀久
委員 村上寅美
委員 小杉直
委員 岩下栄一
委員 氷室雄一郎
委員 鎌田聰
委員 佐藤雅司
委員 西聖一
委員 内野幸喜
委員 増永慎一郎
委員 泉広幸
委員 杉浦康治
委員 緒方勇二

欠席議員（1人）

委員 浦田祐三子

委員外議員（なし）

説明のため出席した者

企画振興部

部長 錦織功政

熊本県理事

兼交通政策・情報局長 小林 豊

首席審議員

兼地域振興課長 津森洋介

交通政策課長 中川誠

商工観光労働部

観光課長 小原雅晶

くまもとブランド

推進課長 坂本孝広

土木部

部長 船原幸信

道路整備課長 手島健司

道路保全課長 亀田俊二

都市計画課長 内田一成

審議員兼

鉄道高架推進室長 上野晋也

警察本部

交通部長 浦田潔

交通規制課長 奥田隆久

事務局職員出席者

政務調査課課長補佐 森田学

政務調査課主幹 松野勇

午前10時03分開議

○井手順雄委員長 ただいまから第10回高速交通及び新幹線活用対策特別委員会を開催いたします。

本日、私、きのうに引き続き、のどの調子がすこぶる悪く、声がこれ以上出ませんので、よろしくお願ひしておきます。

なお、本委員会に4名の傍聴の申し込みがっておりますので、これを認めることいたします。

それでは、まず、執行部を代表して、錦織企画振興部長に挨拶及び概要説明をお願い申

し上げます。

○錦織企画振興部長 委員会開会に当たりまして、執行部を代表して、本委員会の付託案件の概要につき御説明申し上げます。

第1に、高速交通体系に関する件でございます。

まず、高規格幹線道路等の道路ネットワークの整備につきましては、厳しい道路予算の状況ではございますが、早期完成が図られるよう要望活動などに積極的に取り組んでおるところでございます。

次に、航空路線の利用促進につきましては、国内線全体の本年1月までの利用実績は、昨年度を上回る水準となっております。

国際線につきましては、インバウンド・アウトバウンド双方の利用促進や、チャーター便の実績づくりに重点的に取り組むなど、引き続き阿蘇くまもと空港の活性化及び拠点性向上に努めてまいります。

第2に、熊本都市圏交通に関する件でございます。

阿蘇くまもと空港へのアクセス改善や公共交通機関の利用促進などを進めながら、引き続き交通ネットワークの強化に取り組んでまいります。

第3に、九州新幹線鹿児島ルートを活用した地域振興に関する件でございます。

まず、九州新幹線の運行状況でございますが、熊本広域大水害の影響があったものの11月以降回復しております、昨年度と同程度の利用となっております。

次に、九州新幹線を活用した熊本づくり及び観光振興等についてでございます。

まず、くまもとプロモーションにつきましては、熊本の物産などを紹介するくまモンファン感謝祭を東京、大阪、福岡で、さらには来る3月16、17日には、グランメッセ熊本におきましてこれを開催するなど、引き続き人気の高い「くまモン」を活用して、多彩な熊

本の魅力をアピールし、熊本の認知度向上を図ってまいります。

次に、観光キャンペーンにつきましては、九州新幹線全線開業効果の継続・拡大を図る「期待を超えるぞ！くまもと県。」キャンペーンの展開に加えまして、本年2月、全国1,290カ所のJR駅に5種類の観光ポスターを張り出しているところでございます。全国に向け熊本の魅力を引き続き発信してまいります。

以上、各案件につきまして概略を御説明いたしましたが、詳しくは各課長から御説明申し上げますので、御審議のほど何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

○井手順雄委員長 それでは、議題(1)執行部から事業概要の説明を受け、その後質疑を受けたいと思います。

説明につきましては簡素にお願いいたします。そして、着座のままで説明のほどをよろしくお願ひします。

○手島道路整備課長 お手元の資料に基づきまして、今回は、前回からの変更点、アンダーラインの箇所を中心に説明させていただきます。

担当しておりますI高速交通体系に関する件について御説明申し上げます。

1ページをお願いいたします。

今回、最下段の平成25年2月17日現在の供用延長について、日付と供用延長の修正を行っております。前回から105キロ延びております、供用率が1%延びております。

5ページをお願いいたします。

九州横断自動車道延岡線の小池インターチェンジについて、これまで仮称としておりましたが、昨年末、12月26日に国土交通省から「小池高山インターチェンジ」に決定したとの通知がございました。

10ページをお願いいたします。

熊本天草幹線道路の今後の取組みのところでございますが、本渡道路について、関係機関との所定の手続が完了し、ことし1月25日に都市計画決定がなされたところでございます。

11ページをお願いします。

1) 平成24年度の要望活動等のところを時点修正しております。

九州中央自動車道建設促進協議会におきまして、1月28日に国への提言活動を行っております。

12ページをお願いいたします。

南九州西回り自動車道建設促進協議会において、1月28日に国への提言活動を行っております。

13ページをお願いします。

中九州横断道路につきまして、1月11日に、熊本県と大分県で構成する中九州横断道路建設促進協議会を設立いたしました。会長に熊本県知事、副会長に大分県知事、両県県議会議長も副会長でございます。

2月15日には、協議会として両県知事による国への提言活動を行いました。

以上で説明を終わります。

○中川交通政策課長 交通政策課でございます。

資料の15ページをお願いいたします。

航空路線の利用促進でございます。

まず、国内線の状況でございます。

全体状況。1月までの旅客実績は、平成23年に比べ3.2%の増となっており堅調に推移しております。1月に発生しましたボーイング787機のトラブル以降、同型機が運航停止になっており、阿蘇くまもと空港においても一部に欠航が発生しておりますが、航空会社による代替便の対応等によりまして、現在のところ大きな影響は出ておりません。

次、東京線でございます。1月までの実績は、平成23年度に比べ8%の増となっており

ます。

次、大阪線でございます。大阪方面につきましては、神戸線スカイマークの運休等もありまして、1月までの実績、前年度に比べ14.9%の減となっております。

1ページをおめくりください。17ページをお願いいたします。

国内路線別旅客状況、1月までの状況でございます。一番左側が各路線ごとの旅客数、利用率でございます。一番下の合計欄をごらんください。1月までのトータルの利用率63.9%となっております。

一番右側が対前年度各路線との比較でございます。東京線につきましては、ただいま御説明いたしましたように、1月時点で12万5,000人強の増加、増減率8%の増でございます。

一番下の欄がトータルでございます。先ほど御説明いたしましたとおり、トータル7万3,755人の増加、増減率3.2%の増でございます。

2) の今後の取組みでございます。

まず、全般でございますが、国内にも新たな格安航空会社LCCが誕生し、成田、関空等を中心に路線開設をしておる状況でございます。県といたしましても、今後とも阿蘇くまもと空港への就航の可能性がある航空会社、路線につきましては、既存の航空会社と同様に誘致活動に取り組んでまいります。

東京線につきましては、航空会社に対しまして、県議会のお力添えも得まして増便要望活動をいたしました結果、この春、3月31日から1便増便の予定でございます。羽田便が現在の20便から21便になる予定でございます。今後とも機会を見ながら増便等の取り組みを進めてまいるところでございます。

1ページおめくりください。

国際線でございます。

中段、台湾線でございます。昨年の12月に、前年度に引き続き県立大津高校によりま

す、ジャンボチャーター機によりまして台湾の修学旅行が実施されております。三百数十名の大型ツアーチーによりまして、現地との交流がしっかりとなされているところでございます。

最下段、本年1月には、これもチャーター便の造成によりまして、県議会、経済界、一般県民等を含めました大きな訪問団でチャーター、トップセールス等を行いました。航空会社、観光・物産関係企業等へのトップセールスの結果、台湾側に大きなインパクトを与えてきたところでございます。

19ページでございます。

国際チャーター便の状況でございます。今年度も本年1月末の段階で49便と、前年同時期に比べ15便の増となっており、順調に推移しておるところでございます。

1ページおめくりください。20ページでございます。

まず、一番上の表がソウル線の利用状況、1月までの状況でございます。24年度1月末までの状況、利用率は55.4%。

右側の増減欄をごらんください。利用者数で1,100人の減少でございますが、日本人の落ち込みが大きゅうございます。約2,000人ほど落ち込んでおりまして、利用率の対前年7ポイントのマイナスになっております。

真ん中の欄が月別の利用状況でございます。12月、1月でございます。12月利用率55.5%、1月52.6%となかなか厳しい状況が続いておりますが、手元の速報を見てまいりましたら、2月になりますと68%ぐらいの利用率、伸びているところでございます。

一番下の欄がチャーター便の状況でございます。全体49便の中で、台湾線の状況が34便と、台湾線の増加がかなり好調に推移しておるところでございます。

国際線につきましては、引き続き全庁を挙げて路線の振興・誘致に取り組んでまいりたいと考えております。

23ページをお願いいたします。

航空物流の状況でございます。真ん中の欄に12月、1月の対前年同時期との状況を記載しております。12月93.7%、1月94.8%と現在まだ足踏み状態が続いております。

1枚おめくりください。25ページをお願いいたします。

阿蘇くまもと空港直轄事業の状況でございます。

緊急経済対策による大型の事業投資がございまして、23年度に比べて約3億近く総事業費伸びております。内容としましては、誘導路の改良、照明施設の更新等がなされております。25年度も引き続き直轄事業等頑張ってまいります。

少しおめくりください。30ページをお願いいたします。

大空港構想でございます。大空港構想の中におきまして、県の広域防災拠点として阿蘇くまもと空港、天草空港の拠点機能を高めるべく取り組みを進めておりますが、25年度につきましては、阿蘇くまもと空港のエプロン拡張基本設計等を実施する予定でございます。

交通政策課は以上でございます。

○内田都市計画課長 都市計画課でございます。

熊本都市圏交通に関する件につきまして御説明をいたします。

資料の33ページをお願いいたします。

熊本都市圏交通施策の主な取組みでございます。熊本都市圏都市交通アクションプログラムの成果チェックを実施いたしましたので、別添資料によりまして御説明をいたします。

別添資料の1ページをお願いいたします。

アクションプログラムは、都市圏内で発生していますさまざまな交通問題に対応するた

め、行政、民間共通の行動計画として平成15年度に策定しました。

アクションプログラムでは、右の評価システムにございますように、策定した施策・事業を実施し、成果を評価、検証した上で見直しを行い改善を加えていく一連のシステムを構築しております。この流れに従いまして、定期的な進捗管理と成果チェックを行っております。

成果チェックは平成19年度に行い、平成20年度に見直しを実施しております。

進捗状況は、毎年公表しております。昨年9月の当委員会におきまして御報告いたしました。

成果チェックは、前回から5年経過したことや九州新幹線の全線開業などがあったことから、施策事業の効果を確認するため今年度実施したところでございます。

アクションプログラムの目標といたしましては、下にございますように、5つの政策目標を設定しております。これを評価する指標が中央にあるものでございます。

施策事業は、右にありますように、3つに分類されておりますが、各政策目標の成果を確認する代表的な指標について御説明をいたします。

1枚めくっていただきまして、2ページをお願いいたします。

公共交通関係プロジェクトに関する調査結果でございます。JR駅乗車人員と熊本市電の輸送人員ですが、平成17年頃を底に増加に転じております。特に、平成23年の伸びが大きくなっております。

3ページをお願いいたします。

道路関係プロジェクトに関する調査結果でございます。都市圏における渋滞の解消を目指し、2環状11放射道路の整備を重点的に進めております。その放射道路のうち10ルートについて、平日朝の通勤時間帯の旅行速度を測定いたしました。右側にございますよう

に、赤で着色したものが今回の調査結果ですが、平成14年と比較しまして、旅行速度が上昇したものが3ルート、低下したものが1ルート、余り変化がなかったものが6ルートとなっております。

4ページをお願いいたします。

中心市街地及び自転車関係プロジェクトに関する調査結果でございます。中心部及び熊本駅周辺における歩行者数でございます。これまで減少する傾向にありましたが、平成23年にはどちらも増加に転じております。また、熊本市中心部における路上駐輪台数でございますが、平成24年は台数が大きく減っております。

アクションプログラムの成果チェックについての御報告は、以上でございます。

委員会資料にもう一度戻っていただきまして、33ページをお願いいたします。

昨年10月から11月にかけてまして、パーソントリップ調査を実施いたしましたが、4万8,212世帯から回答をいただきました。最終的な回収率は38.9%でございました。この回収率は、ほかの都市と比較してもかなり高い数値であり、調査に御協力いただいた皆様に、この場をおかりしまして御礼を申し上げます。

説明は以上でございます。

○中川交通政策課長 交通政策課でございます。

引き続き、資料の35ページをお願いいたします。

豊肥本線を活用した空港ライナーの試験運行の状況でございます。平成23年10月からの延べ利用者数が6万3,039人となっております。1月末現在の数字でございます。

真ん中の段に、月別1日当たりの利用者数を記載しております。12月で142人、1月139人となっております。当面の目標150人にもう一歩というところでございます。また、本

年の1月6日には、1日の最高利用者数254人を記録しておるところでございます。

資料をおめくりください。38ページをお願いいたします。

公共交通機関の利用促進の最下段でございます。昨年の12月からJR九州のSUGOC Aカード、これが県内でも利用を開始されたところでございますが、今月の23日から、このJR各社を含みます全国の主要なICカード乗車券につきまして、相互利用サービスが開始されるところでございます。

交通政策課は以上でございます。

○内田都市計画課長 都市計画課でございます。

資料の39ページをお願いいたします。

パークアンドライドの状況でございます。現在、熊本都市圏におきましては、10カ所においてパークアンドライドを実施しております。今年2月末時点の状況は、表の最下段、合計欄のとおり、駐車可能台数546台に対して契約台数は324台、稼動率は59%となっております。

資料の41ページをお願いいたします。

パークアンドライドに関する今後の取り組みでございます。稼働率が低迷している駐車場の利用促進に向けては、今年度実施しましたアンケートを分析し、問題点の整備、対策の検討を行います。検討結果を踏まえて、駐車場事業者へ改善の働きかけを実施してまいります。

また、パークアンドライドの実施箇所の拡大を図るため、未設置の駅、バス停における駐車場設置の可能性を検討し、可能性があると判断された箇所においては、駐車場設置に向け関係者の理解を求めていくとともに、設置に向けた取り組みを支援してまいります。

説明は以上でございます。

○上野鉄道高架推進室長 鉄道高架推進室で

ございます。

資料の44ページをお願いいたします。

JR鹿児島本線等連続立体交差事業についてまして、変更箇所は、(2)の予算確保のための平成24年度における要望活動等のアンダーラインの箇所でございます。平成25年1月には、国の緊急経済対策に係る補正予算確保について国へ強く要望を行い、国の予算内示では、要望額に対し満額が配分され、事業計画どおりの予算確保がでております。

以上で説明を終わります。

○中川交通政策課長 交通政策課でございます。

資料は49ページをお願いいたします。

九州新幹線鹿児島ルートを活用した地域振興に関する件でございます。九州新幹線の利用状況、冒頭、企画振興部長の説明にもございましたように、熊本広域大水害の影響があったものの、11月以降は順調に回復しております。開業初年度と同程度の利用状況となっております。

1枚おめくりください。50ページをお願いいたします。

開業2年目の利用実績につきまして、11月、12月、1月の状況を欄の下段に追加しております。博多ー熊本間、11月、対前年99%、12月で103%、1月104%でございます。1月末現在の時点で、対前年度トータルで1.2%ほどの伸びとなって、順調に推移しているところでございます。

以上でございます。

○坂本くまもとブランド推進課長 52ページをお開きをいただきたいと思います。

九州新幹線を活用した熊本づくり及び観光振興等についてでございます。

(1)のくまもとプロモーションの推進及び観光キャンペーン等の展開でございますが、本年度までは、東京地区のプロモーション活

動は広報課がすべて行っておりましたけれども、25年度から、マスコミも集中しておりまして、波及効果の高い首都圏に関しましても、「くまモン」を活用したくまもとプロモーションを、一体的に展開してまいりたいというふうに考えております。

それと、観光面につきましては、交通事業者や観光旅行会社等との連携をいたしまして、関西、首都圏からの観光客誘致を目指す観光キャンペーンの活動を展開してまいりたいというふうに考えております。

それでは、平成24年度の取組みで、くまもとプロモーションの推進、53ページをお願いをしたいと思います。

「くまモン」を活用したPRのところでございますけれども、前回の委員会のときに御説明をさせていただきましたが、「くまもとから元気をプロジェクト」ということで、これまで熊本との関連性が薄かったといいますか、「くまモン」が余り行っていなかったような地域をいろいろ訪問させていただいております。この前、沖縄まで御説明させていただきましたけれども、その後、宮城、福井、北海道、山形のほうを訪問させていただいております。

宮城では、県並びに県の市町村から9名ほど職員が派遣をされておりますが、その慰問をさせていただいて、そして保育園等にも「くまモン」資金を一昨年お届けしておりますが、そこをまた訪問させていただいたりして、その保母さんのお話によりますと、保育園の園児が震災以降これまで一番の笑顔だったというような報告も受けております。

それと、福井のほうでは、横井小楠の足跡をたどるような形で展開をさせていただきました。

北海道では、雪まつりにおきまして、今回雪祭りの銅像の中に「くまモン」が2体出現をしたというふうな状況がございます。そういう中で、北海道との結びつきをつけて、ま

た熊本のほうから開拓に出向かれている集落があります、熊本というところがですね、そちらのほうにも出向きました、皆様方と交流をさせていただいております。

それで、次が食品関係とのコラボでございますけれども、53ページのデコポンミックスジュースの横にあります太平燕の「くまモン」の絵柄が入ったものがあると思いますが、それをエースコックさんが、熊本の名物料理の太平燕として全国販売を1月7日からやっていただいておりまして、東京、北海道を中心としてかなり売れているというふうに聞いております。

次のページをお開きいただきたいと思います。

出版社等とのコラボでございます。前回8社の18万部ということでお話をさせていただきましたが、今回、報道等でも出ておりますけれども、カラオケ業界の最大手であります第一興商さんが、「くまもとサプライズ！（くまモン体操）」の原曲でございますけれども、この配信を、「くまモン」の誕生日であります3月12日から配信して、今DAMというところのカラオケでは歌えるような形になっているかなと思います。

それと、55ページでございますけれども、地域の特性に応じたPR展開ということで、まず関西におきましては、先ほどの企画振興部長の御挨拶にもありましたけれども、「くまモン」のファン感謝祭を、大阪ミナミにあります湊町リバーブレイスというところで熊本逸品縁日をやらさせていただいて、県産物の販売に33団体出展するとともに、来場者の方が5万5,000人も来ていただきまして、かなり盛況に終わっております。

それとあわせまして、福岡のほうでも「くまもとファン感謝祭」を行いまして、福岡のキャナルシティの1,000人入るホールでございますけれども、これを2回公演をさせていただいて、大体応募状況は満席だったんです

が、どうしても当時来れなかった方もいらっしゃって、大体800人ぐらい入ったかなと思っております。あわせて熊本物産展を行っております。

それと、一番下のところに書いてあります
が、東京において「くまモンファン感謝祭」
を目黒雅叙園で行っております。これは、20
0名という募集をかけたんですが、7秒で、
秒殺で締め切りをしたということでかなり苦
情が来ております。今後考えたいと思ってお
ります。

それと、56ページでございます。

くまモン等についてですけれども、ツイッ
ターの今フォロワー数が16万を超えておりま
す。それと、「くまモン」のキャラクター使
用におきまして、使用許諾件数が1月末現在
で8,192ということになっております。2月
では8,500を優に超えております。

「くまモン」の使用を許諾した商品の売上
高が、24年1年間で293億円ということになっ
ております。昨年の11.5倍です。知事のほう
も答弁で言っておりましたけれども、回答率
が55%なんで、もう少し伸びるのではないか
なというふうに思っております。来年度から
は、その売上高の回答を義務づけることも考
えていきたいというふうに思っております。
今はお願ひをしておりますので、そういうこ
とも考えていきたいと思っております。

それと、県内でのくまモンプロモーション
でございますけれども、「くまモン」の誕生
祭を今度の土曜、日曜にグランメッセのほう
でやりたいと思っております。5万人動員を
目標として頑張っておりますが、熊本の場合、
自動車対策のほうが大変でして、臨時駐
車場とか臨時バスとか、そちらのほうに私
たちの職員の勢力をそがれている関係がありま
して、なかなか大変だなという感じを実感と
して持っております。

それと、293億円ということで広報をいた
しましたら、全国のテレビ局からいろいろな形

でありますて、そこの57ページの上のほうに
あります、テレビ朝日さんとかTBS、日
テレさん、こういうところから取材攻勢があ
りまして、結構長い尺をとっていただいて、
「くまモン」のこと、熊本のことを広報して
いただいたということで、かなり広報効果は
上がったんじゃないかなというふうに思って
おります。

それと、57ページの下のところでございま
すけれども、「くまモン」のブランド価値の
向上の取り組みといたしまして、キャラクター
の深化ということを図ってまいりたいと思
っております、4コマ漫画を作成して、地
元紙、きょう熊日さんも来ておられますが、
熊日さんのほうで4コマ漫画を掲載していき
たいと。

4コマ漫画については、県民の方々からさ
まざまな意見を今寄せていただいております
が、結構ユニークな意見も寄せられておりま
すので、小山薰堂さんの監修のもと、4コマ
漫画を作成して、皆さんとともに「くまモン」
を育てていきたいというふうに考えてお
ります。

それと、次、58ページでございますが、新
しいコンテンツ、くまモン体操ということで
今やっておりますけれども、その体操以外の
新パフォーマンス、新しいパフォーマンスを作
成しようということになりました、熊本出身の
森高千里さんに歌っていただいて、「愛は勝つ」
とかで有名なKANさんという作詞作曲をやる
方がいらっしゃいますが、その方に作詞作曲を
していただいて、南流石さんという方に振り付けを
していただいて、総合監修を小山薰堂さんにして、「くまモンも
ん」という形のものをつくっております。今
度の17日の13時にお披露目をさせていただき
たいというふうに考えております。

もう一点でございますが、「くまモン」と
熊本の関連性を強化するということも、常に
意識を持ちながら進めてまいりたいといふ

うに考えておりまして、観光物産交流スクエア、東館にございますけれども、今「かたらんね」ということで県産品を販売する施設となっております。その形態を3月末でやめまして、「くまモン」を活用した観光情報発信交流拠点施設として、7月オープンを目指しまして整備をしてまいりたいということで考えております。

皆様方から「生くまモン」にぜひ会いたいという御要望等がありますもんですから、そういう施設を準備して、そこに集まつた方々に対してきちんとした観光情報、物産情報を提供することによって、より効果的な形で観光物産振興に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○小原観光課長 観光課でございます。よろしくお願ひいたします。

観光キャンペーン等の展開でございます。

61ページをお願いいたします。

昨年末から現在までの観光キャンペーン等の展開の主なものについて御報告いたします。

61ページ中ほど、④「阿蘇は元気です！熊本は元気です！キャンペーン」ですが、熊本広域大水害による風評被害を払拭するため、昨年8月から始めているものでございまして、今まで継続しております。県内・福岡向けには、旅行雑誌への熊本の特集の掲載や観光パンフレットの旅行会社への配布、博多駅でのイベントなどを行っております。

62ページをお願いいたします。

関西、首都圏、全国に向けましても、旅行雑誌に熊本の特集を掲載するとともに、新聞などの媒体も活用しPRを行っております。

最下段の写真は、右側の写真ですが、1月末から半月間、東京メトロ丸の内線、銀座線のそれぞれ1編成（6両）に、車内貸し切り広告を実施したものでございます。

次に、63ページをお願いいたします。

昨年10月からことし3月まで半年間実施しております「期待を超えるぞ！くまもっと県。キャンペーン」でございます。このキャンペーン期間中、県内の観光事業者等の協力を得てつくり上げた特典や特別企画などをPRすることで、誘客に努めているところでございます。

次に、65ページをお願いいたします。

下段の写真でございますが、新たに観光ポスターを作成、うち5種類、熊本城、阿蘇、天草、青井阿蘇神社、通潤橋の5種類を、全国JR駅1,290カ所に、五連張りポスターとして2月の1カ月間掲示したところでございます。なお、このポスターのほかに、玉名、菊池、山鹿、宇土、五木、五家荘、芦北等の7種類のポスターを現在制作しているところでございます。

66ページをお願いいたします。

このほか、季刊誌「くまもとたいむ」の発行や観光展の開催をしており、中ほど一番下のアンダーラインでございますが、あさって、3月16日土曜日には、新幹線開業2周年記念イベントを熊本駅にて、JR九州と共に開催することしております。

次に、68ページをお願いいたします。

中ほど、⑪九州他県と連携した観光客誘致活動の推進でございます。熊本県、宮崎県、鹿児島県を構成員とする南九州広域観光ルート連絡協議会の事業として、3県共同して、3県をめぐる観光PR記事を旅行誌に掲載をしております。

次に、69ページをお願いいたします。

また、長崎県、熊本県、大分県を構成員とする九州横断長崎・熊本・大分広域連携観光振興協議会におきましても、同様の取り組みを行っております。

これらの取り組みにつきましては、来年度につきましても鹿児島と宮崎県の南九州3県、長崎、大分の九州横断3県との連携を、

さらに強化した事業を展開してまいりたいと考えておるところでございます。

最後に、70ページをお願いいたします。

直近の観光動向についてでございます。熊本県宿泊客数動向調査、10月から12月の本県の延べ宿泊者数速報値でございますが、対前年同月比96%となっております。国内の宿泊者数については、平成24年第3四半期の対前年同期比87%に比べ減少率が小さくなっています。7月の熊本広域大水害の影響からの回復傾向が見られております。

また、海外からの宿泊者数は、平成23年は東日本大震災・原発の影響により大きく減少いたしましたが、平成24年は対前年同月比、第4四半期、10月～12月におきましては132%と、東アジアからを中心として順調に回復しているところでございます。

以上でございます。

○井手順雄委員長 以上で執行部からの説明が終わりましたので、質疑に入ります。何かありませんでしょうか。

○杉浦康治委員 30ページですけれども、最下段のところで、空港機能等の強化云々ということで、広域防災拠点としての役割・機能ということで検討されたということなんですが、エプロンの拡張云々ということで。もちろん、これはこれとして必要なことですけれども、空港そのものに関する役割あるいは機能等についての検討、調査というようなことについては、実施される予定というのはまるつきりないんでしょうか。

○中川交通政策課長 広域防災拠点についてのお尋ねではなくて……。承知しました。これは少しさかのぼりますけれども、空港そのものの経済波及効果ということで一度調査をした経緯がございまして、その際には、阿蘇くまもと空港の直接効果だけで約440億円と

いう数字をその調査の時点で持っております。また、その際に、副次的な波及効果まで含めれば、阿蘇くまもと空港は県経済に対して約1,000億の経済波及効果を持っていると、そういう調査をした経緯がございます。

以上でございます。

○杉浦康治委員 そういうことではなくて、要は個別・具体的に、空港としての機能あるいは役割といったものを検討したことがあるかというか、検討する予定はないかということなんんですけど。

○中川交通政策課長 空港の一番の本来の目的としましては、路線の振興、ネットワークの強化、それから本来機能を高めるためのアクセスの強化ということを考えておりまして、そういう個別の機能を高めることを目的とした検討等は、適宜、隨時やらせていただいております。

以上でございます。

○杉浦康治委員 適宜、隨時やられた結果として、例えばですけれども、個別・具体的に熊本空港としてこういう機能を持っていなきやいけない、こういう能力がなきやいけないというような部分について、まとまっているというふうに理解をしてもいいですか。

○小林理事(交通政策・情報局長) 阿蘇くまもと空港につきましては、長年の運営をしてきている実績の中から、おのずとどこが弱点なのか、どこを評価すべきなのかというのが、経験値としていろいろと割り出されてきておりますし、その中で特に今、大空港構想の中で防災的な機能、これは九州全体を見渡した防災的な拠点となるべき機能というものが弱いだろうということを割り出して、今それを深掘りして検討しておるんですけども、全体を見て、空港とはどうあるべきかと

いう調査はする必要性は特に感じていないというところです。

○杉浦康治委員 大空港構想ということで、少し漠としたようなイメージを持っているんですけれども、それをもっと色づけをある程度細かく、きちっと数字を挙げて、例えば駐車場だったら、こういう時期にはこれだけのものを確保しなきやいけないとか、アクセスについてもこうあらなければならないとかいうようなものを検討されたことがあるのかないのか、検討の予定があるのかということを言うと、もうそれもまるっきり必要性感じていないということですか。

○小林理事(交通政策・情報局長) アクセスに関しましては、もう既に長年の歴史の中で調査費をかけて検討していくというより、結果が現在の空港ライナーの実験に結びついてきているということがございまして、これは既に蓄積があります。検討してきている蓄積があります。

駐車場については、これも現在都市計画課とも一緒に議論をしている中で、駐車場能力、または周辺民間の駐車、違法な状況がありますけれども、これに対してどういうふうに対処すべきなのか、こういうことの検討の中で議論をしてきているわけですから、一つ一つの空港に関する事項については、それぞれ議論を深めているという状況にあります。

○杉浦康治委員 ぜひその議論を深めていかなきやいけないと思っておりますので、また個別・具体的にいろいろとお話を聞かせていただく機会があったらうれしいなというふうに思っております。

一応、そういうところで要望しておきます。

○井手順雄委員長 ほかにございませんか。

○岩下栄一委員 大空港構想ですけど、こだわるんですけど、「大」が大上段に振りかぶって、あっさりといいますか、大空港と。これは意図するものは何ですか。

○小林理事(交通政策・情報局長) 大空港構想のそもそもネーミングの発端というのが、やはりアクセスを強化する中で、鉄道をどう空港に引き込んでいくのか、この検討の中で一つ、肥後大津駅を空港の鉄道の入り口駅にしようという発想の中から、この肥後大津駅は空港の中で取り込もうという発想が、一つ大空港の「大」の原点ではあるんですけれども、それにとどまらず、現在の大空港構想の趣旨といいますか考え方は、九州の中心地にあって、非常に大きなお客さん、旅客流動がある拠点空港をいかに活性化し、さらに災害に対する救援拠点としても評価し、またはパイロットの教育拠点というのもあるんですけども、さまざま付加価値をつけて、九州の中の中核空港としてしっかりと成長せん、またはアジアの中でも有数の空港にしていきたいと、こうしたことを含めて大空港という発想で今取り組んでおります。

○岩下栄一委員 はったりでいいと思うんですけど、大空港というと、イメージ的にはチャンギ国際空港とか、上海とか、そういうどうしてもイメージが浮かぶんですね。それに比べると、熊本空港というのはえらいちっぽけな空港だなとがっかりするんだけど、要するにははったりははったりでいいんですけど、中身を今後またどうぞ拡大してください。

○緒方勇二委員 68ページの南九州広域観光ルート連絡協議会のことでお尋ねします。

6つの極ジョウをテーマにいろいろ協議されておられると思うんですが、これはフードバーにも関係あると思って考えているんで

すけれども、御存じのように肥薩線があつて、日豊本線があつて、それから鹿児島本線があつて、出水からがおれんじ鉄道、この観光列車ですね、今度おれんじ食堂がスタートしますけども、これ1日で回れるんですね。

この中の極ジョウの乗る部分、こういう観光ルートをひとつ、JRとおれんじ鉄道関係ございましょうが仕立てていただいて、新たな観光ルートに、これフードバーで人吉・球磨、とりわけ県南のことがその中に位置づけていただいて、企画をつくっていただけば、非常にポテンシャルが高いルートだな、「いさぶろう・しんpei号」で、「はやとの風」もありますけど、いずれにしてもそういうルートで考えていただければ、世界の三大車窓もありますし、おもしろい試みができるんだろうと常々思っています。

どのようにお考えか、ちょっとお聞かせ願えませんか。

○小原観光課長 南九州3県合同のいろいろな取り組み内容、特に観光列車を用いた地域観光振興についてのお尋ねということでございますので……。

実は、私ども来年度キャンペーンで、観光列車を利用したキャンペーンをJRと地域の方々と開催しようということで、今計画を練っております。また、その中で芦北・水俣地域、それから人吉、そしてあと隣接する鹿児島、宮崎と一緒に今その話をちょうどやっておるところでございますので、来年は、今委員がおっしゃられたような形が、1日で回れるかどうかというとちょっとあれなんですけども、観光列車を利用した旅行商品の造成等を、今から図っていきたいというふうに考えているところでございます。

○緒方勇二委員 肥薩線が、御存じのように川線があつて、山線があつて、おれんじ鉄道

が海線であれば、そこに息づくやっぱり暮らしの向きが既にすごく感じる線なんですね。

ましてや、御存じのように肥薩線なんかは産業遺産の登録を目指しておられます、特に往時のことを考えば、官営の事業で災害にも強いし、本当にいい仕事をしていただいた産業遺産が点在しているんですね。その中で、隣県との広域連携を図っていただいて、せっかく3地域振興局の広域本部も立ち上がりますし、何かその辺のルートを——私子供が卒業した折に実はこの路線回りました。1日で行きます。「いさぶろう・しんpei号」に乗りまして——、私の長男の名前は「しんpei」です、(笑声) それで回ってみたんですけど、おもしろいんですよ。ぜひその辺温めていただきたいなと思います。これ要望です。

○小杉直委員 そんなら3点ほど。

最初は柔らかく。「くまモン」が超人気で活躍ですが、「くまモン」人気の年齢と男女の別ですたいな。男から人気があるか、女性から人気があるか。あるいは大まかに、子供さんとか御家庭とか、成人とかあろうけれども、年齢層、そういうものがどの程度なのかということ。

2つ目は、45ページ、合同庁舎のB棟ですね、PFI方式で平成20年度から平成34年度となっておりますが、下のほうのB棟の建設工事スケジュールでいくと、26年10月完成予定と書いてありますから、この違いはどうかということ。

それから3点目が、19ページ、阿蘇くまもと空港の国際線旅客数の推移、あるいは70ページの、東アジアを中心として順調に国際線が回復しているということですが、この2つに関して、尖閣諸島をめぐってのその後の中国に関する観光客の状況等はどうだろうかと。

この3点。

○坂本くまもとブランド推進課長 きちんとしたデータに基づいた話でありますので、私の直感的な形でお話をさせていただきたいと思いますが、委員がお話しのように、かなり幅広いファン層があります。子供さんからおじいちゃん・おばあちゃんたちまで。そしておじいちゃん・おばあちゃんたちはどちらかというと、子供さんたちにお土産とか写真とかを送るような形で、子供さんを連れてこられるという形が多いかなと思います。

意外と隠れたファン層として、コアなファン層がいらっしゃるんですが、40代後半から50代の女性で、ここは言つていいかどうか余りわかりませんが、独身で、OLで、キャリアウーマンで、意外と社会に疲れていらっしゃる方たちが癒やしを求められる、そういう方々が結構多いんじゃないかなと思っております。(笑声)

以上でございます。

○津森地域振興課長 2点目の合同庁舎についてお答いたします。

この書き方につきまして、まず26年の10月に完成予定ということで、これは実際の事業、何といいますか、トンカチが、整備が終わるというふうな数字になっています。これに書かせていただいているように、PFIの方式でやっていますので、民間さんにやっていただくという形になります。

ですから、この運営というか、管理とかというものが期間として34年。この費用を15年間にわたって、国のはうから民間企業のはうに支払っていくということで、実際の物自体は26年完成します。実際に移転とかされます。その支払いとかというふうなことが継続して長期にわたって支払っていくということで、2段階の数字を書かせていただいておるという状況でございます。

○中川交通政策課長 交通政策課でございます。

まず、先に、19ページの国際線の旅客数の推移の中の、外国人の状況だけ御説明させていただきます。

アシアナ航空ですので、中国の方の利用というのはそうないかと思われますが、今年度の半ばぐらいまでは日本人の割合のほうが多かったんですけども、10月ぐらいから外国人の割合かなり多くなりまして、直近でいきますと、お手元の先ほど説明した資料にもありますように、日本人の方に比べても、ほとんど外国人の方の数の伸びが大きいと。もともとアシアナ航空の路線はインバウンド路線でございますので、円高ウォン安というのが今円安基調になっておりますが、それを敏感に察知したのか、今かなりインバウンドのお客さんが好調でございます。

以上でございます。

○小原観光課長 中国からの観光客の動向についてでございます。例の尖閣の案件以前は、月に大体2,000人から3,000人入っておりました。その後極端に減りまして、現在個人客を中心に、大体月1,000人程度は来ているんじゃないかなという情報を伺っております。

また、韓国に関しましても一時減少いたしました。これまで熊本に来られる外国人観光客の7割を占めておりましたが、現在5割まで落ちております。これはただ例の問題に加えて、その当時円高でございましたので、そういう意味で減っております。

ただ、現在、香港、台湾、シンガポール、これは非常な勢いで伸びておりますが、韓国につきましても、今、中川課長からございましたように、円安に振れておりますので、現在韓国の旅行代理店のはうからもいろいろ問合せがございまして、今年度以降、これは東南アジア、韓国からの旅行が非常にふえるのではないかと期待しておりますので、我々も

全力を挙げて、こちらからのインバウンドの攻勢をしかけていきたいと考えております。

また、中国に関しましては、一時期は春節に向けて、あるいは桜の時期に向けて、あるいは夏に向けるというと、それぞれのシーズンに向けて大体3カ月から4カ月前に旅行の仕込みがございますので、それにあわせて準備をしているところですが、今回春にも間に合わないということで、次は夏のシーズンになるということでございますが、これに関しましても、中国側の情勢いかんにかかってございますので、これに向けまして、いつそこが緩和されるかに向けまして、準備をきちっとしておこうということで、現地の旅行代理店、そういった航空会社等につきましては常に接触をとりつつ、そういった時期に向けてすぐ対応ができるような準備をしているところでございます。

○小杉直委員 確認ですが、我々も尖閣諸島の政治問題は政治問題として別個に、日中協会の春節の祝いなんか出席しよるわけですが、今の話では、尖閣諸島の国有化の直後は激減したけれども、徐々に回復しつつあって、以前の2,000人前後から今1,000人前後まで回復して、今後の見込みを回復していく予想がとれるということで理解していいですか。

○小原観光課長 中国の情勢いかんで回復のほうに向かっている、需要は十分あるというふうに私どもは思っております。

○小杉直委員 わかりました。

○村上寅美委員 両部長にちょっとお尋ねしますけど、熊本駅の交通だけど、熊本駅の東口、いいですね、これはこれからいろいろ懸案というか、計画立案がでけて進んでいくだろうと思うけど、最終的に熊本駅の完成は一

応平成30年度と見ておっていいわけ。

○内田都市計画課長 都市計画課でございます。

連続立体交差事業の完成見込みが30年度でございます。その連続立体交差事業の後に駅前広場の整備が残ります。そこは熊本市が行いますが、それは30年度より先になります。

○村上寅美委員 30年は連続立交であって、駅の整備が最初28年のとき、最終的な完成は28年ですというふうな答弁も聞いておったよ。

○内田都市計画課長 これまで説明しておりましたのは、連続立体交差事業が28年度に完了いたしまして、駅前広場については平成30年度ごろということで説明をしておりました。

○村上寅美委員 そうだろう。君の前あたりは。（笑声）——よかたい。

それで、僕があれするのは、いろいろ言つても大空港と一緒に、熊本駅というのはやっぱり陸の玄関だから、熊本のトータルの玄関だから、しかも言わぬでも、博多にあれだけのビルと、集客してしまって、鹿児島にはそれにプラザが完成しているという中で、うちの場合は30年、それ以降というたらもっと時間がかかるだろうと思うけど、死んでしもうとするわけよね、街が、あすこは。

元二本木というところで非常にぎわいよった、中身は言わぬばってんね。（笑声）しかし、ほとんどない、駅通りの電車通りからなんかから。もう8時ごろになつたら本当にぐらい。今はやむを得ぬとしても、部長、これからいろいろ立案していく、経済界も含めていくんだろうから、やっぱり核になるもの、核になるような駅前の整備をしてほしいということは何回か言ったけど、潮谷知事の

ときも複合ビルを中心開発をしていくというような、これも代表質問だったと思うけど、そういう答弁も出ている。

部長は来たばかりだからだけど、博多、鹿児島とすぐ比較する。そして熊本駅に魅力ある東口の駅をつくらないと、西は区画整理なんかでこぼこでしようが、駐車場からなんから。だから、あれも相当指摘があるけど、これは熊本市の事業だから、表も今度熊本市がと言うけど、市に丸投げしてしまうような政令指定都市になったつもりはないよ。知事からそれは聞いておる。やっぱり併合して、行政区として政令指定都市になるけど、あくまでも県と一体となって推進していくということだから……。

熊本市ですもんねと言ってしまえば何にもできぬわけない。まして政令指定都市がたい、街は後退するよ、そういうことを言って。県の力と市の力というのは、力がどっちがどうあるとは言わぬけど、やっぱり国とのパイプでこれまで何十年と県は来ているんだから、この辺のところの整合性と、それから知事が新幹線は100年の計だと言われるから、そういうところならば、30年であろうと32年であろうと、もう100年は動かさぬぞというような貫禄のある、魅力のある駅舎を、駅ビルというか、こっちの東口をつくってもらいたいなというのが私の希望ですけど、どうですか。

○錦織企画振興部長 私もこちらに参りましてから本会議で答弁させていただいておりますとおり、村上委員からの御指摘のとおり、熊本駅というのは県の窓口、外からおいでになられた方が最初に入られる玄関口でございますので、これを整備していくということは本当に大切なことで、これは全県として大切なことだと思っております。

その上で、この関係者というのは、市はもちろん都市整備計画を持っておりますから、

そういう意味では一義的に彼らがもちろん積極的にやる。民間・商工団体の方も、中心市街地等の整備をどうするんだという危機感を持っていらっしゃる、それもわかる。

一方で、県といたしましても、私、企画振興部の立場としてはもちろん、まず玄関口として県全体、全域の窓口として関心がありますし、それから交通結節点として一体どうやって使っていくのかという問題点もございます。

それともう一つ、JRの側で、基本的にはあそこ民有地でございますので、どういう形で提案をして、どういうビルがあるべきなのかという提案をさしていただきたいとか、その手段の部分からよく3者でいろいろ議論を重ねながら、あるべき姿を探していかなければいけない、そう考えております。

○村上寅美委員 議論はあるけど、やっぱり県としてのきっちりしたスタンスを、市の方に投げるというぐらいのはまりを持ってもらわないと、今幸山市長がやっていることは、あそこにビルを、賃貸ビル等、あれをつくったから、あとは何にも今のところ計画がないと、それが現状なんです。だから、どうしても福岡とか鹿児島あたりを見れば、熊本はやっぱり民間の経済界が弱いわけね、積極性が。だから、インパクトは県がリーダーシップをとりながら、そしてあとはまちづくりだから、これは熊本市が事業主体。

また、市でないとまちづくり三法なんか使えぬもんだから、県では。それはわかるけど、だから市に言うけど、市がせぬからそのままということでは、私も7期目だからずっと言ってきてているけど、最後の結論は市に投げたと、これじや寂しいということ。本当に熊本の、やっぱり21世紀の熊本、知事が100年周期の熊本駅の新幹線だと言われるなら、ぜひ魅力ある熊本駅をつくるように、県から推進をしてもらいたいということを要望して

おきます。

それから、課長が言った二本木の石仏、あの辺なんかは遮断機の前を通る。駅だけは連続立交して、豊肥線のあれが上がらぬもんだけん、あそこで詰まってしもうとするわけたい。だから、あれも熊本市ですからとしか答弁はできぬだろけん、県として知恵ば出してもらわにやいかぬ。要望です。

○氷室雄一郎委員 私はいつもお尋ねしている34ページのリムジンバスの件です。この快速は中止になったんですか。

○中川交通政策課長 34ページの御指摘の快速便の運行でございます。これは平成22年から23年の間に、トライアルで九州産交のほうで快速運行をなさいました。その結果、現時点では快速運行は中止になっております。その理由としましては、米印の一番最後に書いておりますが、一番事業者が悩まれたのは、通常のリムジンバスと快速運行の区別がなかなか利用者の方にわかりづらかったという点で、かなり苦情が出たという点。

それから、実際走らせて、半年間ぐらい走らせたんですけども、思ったよりも利用が伸びなかつたというところで、現時点では一たん中止ということになっております。

以上でございます。

○氷室雄一郎委員 なかなかこれは難しい問題ですけども、ところが36ページには、また利便性向上で、今後具体的な取り組み方針を協議していく、ここは何か具体的なものはないのではないかと思うんですが、何かその辺は県としていろんなところと協議をされていくわけでございますけども、あとは万策尽きてるわけでございますけども、何かそういうものが考えられるんですか。

○中川交通政策課長 リムジンバスにつきま

しては、まだまだ検討の余地があると考えておりますて、ただその実現できるかどうかは別としまして、例えば新たなルートを、今のルートと違うようなルートで別に空港のアクセスに資するようなものをつくるとか、私ども空港の本来機能を高めるアクセス、公共交通機関によるアクセス、この分をいかに改善するかという点で、少しづつできる点から取り組んでいきたいと思っております。

以上です。

○氷室雄一郎委員 この件は、これではなかなか難しい問題で余り期待はできないと思うんです。

もう一つ、「くまモン」について、僕は単純に素朴な質問ですけど、「くまモン」は1体から出発したんですか。どうなんですか。
(笑声)

○坂本くまもとブランド推進課長 今も1体でございます。(笑声)

○氷室雄一郎委員 いやいや。非常に需要が多くて、もっとふやせというですね。

○坂本くまもとブランド課長 1体と言っていますのは、「くまモン」は「くまモン」としてのそれは1体です。ただし、くまモン隊というのは、予算にも上げさせていただいておりますとおり、熊本に3隊います。隊というのは「からだ」の体ではなくて、女性とペアになった隊ですね。その形で熊本に3隊、福岡に1隊、大阪に2隊、東京に1隊、上海に1隊、全体で8匹という言い方は、ちょっと申しわけありませんが……。

○氷室雄一郎委員 何人おられるんですか。

○坂本くまもとブランド推進課長 くまモン隊にトータルでかかわっている人数は、それ

の八掛ける二として、二八、十六ですから、二十数名ぐらい、隊員としてはおります。

○氷室雄一郎委員 最初は1人——とは言えませんが、1つだったんですね。

○坂本くまもとブランド推進課長 そうです。1クールしか。

○氷室雄一郎委員 少し人気も出てきました。ところが、いろんなところで要望がございますけども、「くまモン」は忙しいからなかなかスケジュールが合わないということで、私たちもいろいろ要望があるんですが、忙しくて「くまモン」は目いっぱいですということしかお伝えできませんので、その辺が一番いい状況で稼働しているというお考えなんですか。これ以上のものは難しいという御判断なんですか。少しずつ徐々に行つたんですけども、この辺が一番いいところかなということなんですか。

○坂本くまもとブランド推進課長 確かに、熊本とかについては、先ほど申しましたような形で動かしておりますので、その中で何とかやれるんではないかなというふうに思っておりますが、最近東京等からの引き合いがかなり多くなってきております。なかなかそれを、一つのクールで回すというのはちょっと厳しいかなというふうに思っておりますので、それは2クールをつくろうかということです、今順次作業を進めております。

○氷室雄一郎委員 もう少しその幅が広がるという……

○坂本くまもとブランド課長 もう少しですね。

○氷室雄一郎委員 ある程度、いろんな問題

もあり、質問では経費の問題で誕生日ということで出されませんでしたけども、今のところはもう少し柔軟に考えるところはあると判断していいわけですか。

○坂本くまもとブランド課長 委員がお考えのとおりで、少しやっていきたいと思っております。ただ、余り出し過ぎてもこれはまたという感じがします。

○氷室雄一郎委員 これからずっとこのままだんどんというわけにはいかない面もありますので、ある程度一番いい範囲内で効果があるようやっていかないと、ただでは動かないわけですので……。わかりました。では、もう少し余裕を持たれているということですかね。はい、わかりました。では頑張ってください。

○井手順雄委員長 礼儀作法をぴしゃっと教えていかにやいかぬ、T P Oに応じた。（笑声）

○佐藤雅司委員 私からも3点、端的にお答えいただきたいと思いますけれども、13ページの中九州横断道路について、今両県知事それから議会のほうも加わって協議会を結成されたということですが、恐らく新年度の国の予算だろうと思うんですけども、調査費とかなんとか具体的な動きがあつてはいるかどうか、これをちょっとお尋ねします。それが1点。

それから2点目は、JR九州、災害で滝室が、竹田一宮地間今不通になっておりますが、例の「ななつ星」あたりもJR九州が企画をしておりますので、恐らくそれに間に合わせるといいますか、そんな感じかなと思っているんですけども、いわゆるはっきりした開通の日取りとか、そんなのがわかつたら教えてほしい。これが2点目。

3点目は、また「くまモン」の話でござりますが、先日テレビを見ておりましたら、例の石川県の「レディー・カガ」、恐らくここに載っていないと思うんですけども、女性たちに囲まれて、「加賀のほうにいらっしゃいな」ですね、それが「くまモン」を活用したと、あれっという感じがちょっとしたんです。

だから、いろんなところに出ていってやることは、これはPR効果も大ですから結構なことだろうというふうに思いますけども、よその県に来てくださいというやつに、何で行かにやんかなという素朴な疑問を持ちました。

この3点を。

○手島道路整備課長 中九州に関する調査費が、国の新年度予算で計上されるかという御質問だったと思いますが、今の仕組みの中で、計上されるのが見えるような形での計上はないだろう。と言いますが、県への負担金とかが生ずるような形での調査というものではないと今のところ考えております。

ただ、実態として、調査費に関してはそう考えておりますけども、滝室坂については、ぜひとも新年度何らかの形で動いていただくということで、再度近々また知事を先頭にお願いにまいる予定にしておるところでござります。

○中川交通政策課長 2点目の豊肥本線の整備状況等のお尋ねでございます。今JRのほうから伺っていますのは、一番衝撃的な写真があったトンネルの部分ですか、あのレールの部分の撤去までは終わっているそうでございます。昼夜を徹して復旧に取り組まれていると。ことしの8月の豊肥本線の全線復旧目途というスケジュールは変わらず、それをめがけて進められている状況でございます。

「ななつ星」につきましては、今の時点で

は10月というところまでは、確かに10月に走らせるというところまでは、JR九州が発表しているように記憶しております。

以上でございます。

○坂本くまもとブランド推進課長 佐藤委員おっしゃるとおりだと私も思います。ただ、「くまモン」はやっぱり熊本を宣伝するものであるということは、それは間違いないことだと思っています。ただ、マスコミとかに取り上げられるときには、そこを切り取って出されるものですから、その部分だけが目立つてしまつたということで、あくまで熊本を宣伝するために行っているものだというふうに、私理解しております。

先ほどから、熊本は全国に元気を届けるプロジェクトとか少しお話をさせていただきましたけども、基本は熊本の元気を皆さん方に届けるということで、熊本のPRのために行くというのが基本だと思いますので、委員から言われたことは今後またさらに気をつけていきたいと思っております。

○井手順雄委員長 いいですか。

○佐藤雅司委員 はい。

○内野幸喜委員 2点、お願ひします。

1点目は、これは毎回言っていることなんですが、九州新幹線新玉名駅ー新大阪駅直通が、上りが2本、下りが1本ですか、3本のままと。この前新聞にも書いてあったんですけど、確かにそう言わされることもわかるんですけど。果たしてこれからお願いしても難しいことなのかどうかということ。

その前に、JR九州さんといろんな話をされたと思いますので、その辺の話の中身についてちょっとお聞かせいただければなと思います。

2点目が、もう一つ、インバウンドで、こ

れどつか書いてあったと思いますけど、このWi-Fiを熊本空港に設置すると。1月に台湾に行ったときに、交流協会の方が言われていたのが、台湾から日本に行かれる方、まず着いたら携帯とかを見て、Wi-Fiで接続できるかと、そういうことをまず見ますと。だから、例えば街中歩いていても、そういったことがどこかあるだろうかとか、そういうことをチェックされるので、それはあるに越したことはないんですね。

この前、九谷県議がちょうど質問されましたけれど、やっぱり福岡とかに比べると熊本というのは極端に少ないと思いますので、そこを——今、商店街の方とかが取りつけていただきたいと思うんですけども、その辺の考え、2点目、それをちょっとお聞かせいただければなと思います。

○中川交通政策課長 まず、1点目の新玉名の要望でございます。新玉名駅の直通の状況につきましては、私どももあそこの直通、あの駅の直通の増というのを最優先の課題と考えておりますし、私もここ1年余りの間に4回要望活動にいっております。まず、玉名市長と一緒に、単独、市と一緒に要望活動、それから県北の3市、横軸3市、菊池、山鹿、玉名と一緒に足を運んでおります。それから次に縦軸、新幹線の新駅4駅ですね、玉名、熊本、八代、水俣の市長さんとも足を運んでおります。

直近では、今度は少し趣向を変えるといいますか、少し工夫をして、福岡県側とジョイントをして、同じく直通の増が実現できていない筑後、大牟田と一緒にになって要望活動しております。

その際、いつもJRは常務がきちんと対応してくれます。その中で出ている話は、まず開業に自分たちは全力を尽くしたと。1回目

のダイヤ改正で様子を見ていて、次のダイヤ改正のときにはまだ1年しかたっていないから、今の直通3本しかない状況、ほかでは17とかありますが、その状況でもう少し様子を見せてくださいと。自分たち——JR側の言い分ですけれども、自分たちはいろんなところを見ています、ちゃんと人の流れを見ていますというコメントをいただいておりまして、私もその場で私の勤務地、一番直近にいたのは福岡、福岡県にいたのですけど、私のほうから最後申しましたのは、今の直通の要望、ぜひ1便でもふえるように実現してくれという話をしましたところ、しっかり受けとめさせてくださいということで回答があつております。

私のほうが受け取る印象としましては、JRの今の新幹線の編成数、今のトータルの編成数がありますが、それがふえない中での増便となりましたら、恐らくほかの駅での減便とセットになると、これはゼロサムの形になると思いますので、そういう中でどこまで実現できるかというの、引き続き沿線の市町村の皆さん方とも一緒にしっかり要望活動をしていく中で、実現に向けて頑張りたいと思います。

以上でございます。

○小林理事(交通政策・情報局長) 情報政策課に絡みますので、私のほうからお答えします。

Wi-Fiについては、今スマートエアポートの一環で、空港の今一部使えるところはあるんですけども、全体で使えるようにする、特に到着したときに使えるようにするということが重要だと思っていますので、そこをまず最初にやりたいなというふうに思っております。

そのほか大きく人の、旅客の動くポイントには必ずなければならぬというふうに思っておりますし、県内各地、民間のほうでもつ

くられているものがありますので、今全体の設置箇所について把握をするように調査していまして、今後必要な観光地でありますとか、箇所をどういったところにつくるべきなのか、それに対して民間へどう呼びかけていくのかを、また商工観光労働部の観光課ともしっかりと協議しながら、設置数をふやしていく努力をしていきたいと思っております。

いずれにしましても、外国の方も日本の方もそうなんですけれども、観光地に行って写真を撮って、そのままブログや自分の媒体にアップをするというのは、常にそういう習慣がついているお客さんたくさんいらっしゃいますので、そういう環境を整えることは重要なだというふうに思っております。

○内野幸喜委員 まず、1点目の新幹線、これは決して可能性はないというわけではないということですね。これから引き続きお願ひしていけば可能性もあると。（笑声）これを見ていると、ほかの熊本駅、新八代、新水俣と比べると、新玉名駅の乗降客数というのは少ないわけです。これが、直通がふえれば私は利用客というのはふえてくると思いますが、引き続きお願ひしたいと思います。

それから、さっきのWi-Fiの件、実は12月の衆議院選挙のときに熊本県版のマニュフェストにこれを織り込もうとした、ちょうど今そこにいらっしゃいます副委員長から却下されたんですけど、それはそれとしていいんですけど、さっきちょっと話があった民間で設置されている方とかもいらっしゃいますので、ここだったら設置されているとか、そういったのがあれば非常にそれは便利なんですね。

これは海外からの方だけでもなくて、日本国内からの観光客の方にとってもそういうのがあれば非常に便利ですし、それもひとつ考えていただければなというふうに思います。

○池田和貴副委員長 濟みません。井手委員長がちょっと離席しておりますので、その間、私のほうでかわりをさせていただきたいと思います。

ほかにございませんでしょうか。

○鎌田聰委員 濟みません。都市圏交通のアクションプログラムの成果チェックということで、さまざまな指標、展開プロジェクトについて、それぞれ成果は上がっていると思いますけども、1点だけ、3ページの道路関係プロジェクトの数値を見ますと、これだけ見ると成果が上がっていないということです。

特に、いろいろな箇所、10カ所ぐらいありますけれども、⑤のグランメッセ熊本あたりの渋滞状況といいますか、速度がさらに落ちているという状況がありますが、特に先ほどくまモン誕生祭の話もありましたけども、何かイベントがあると必ずここはかなり渋滞して、先ほどの大空港の話ではないんですけども、空港までの時間が非常に厳しい時間になってしまうという状況もありますので、これは何らかの手を打っていかないといけないと思いますが、この成果チェックを受けた後、何らかの対応をされるのかどうかをお聞かせいただきたいと思います。

○内田都市計画課長 都市計画課でございます。今回の成果チェックにつきましては、国・県・市町村それから交通事業者等の皆様にもこのチェックお見せいたしまして、それぞれで事業、施策を持っておりますので、それがこのデータに基づいて力を入れていくということで、この目標が達成できるように今後とも進めていくことで考えております。

○鎌田聰委員 これは、成果が下がっているというのは非常に問題だと思うんです。これはグランメッセだけじゃなくて、ほとんどの

ところで横ばいか下がっている状況ですから、やっぱり今までの政策が妥当だったのかどうなのかも含めて考えないといけないと思いますし、今グランメッセの話をしましたけれども、前回のチェックを受けて、パークアンドライドの場所もあの辺は多分出来ていないと思いますし、道路の改良も特に進んでいるのかどうかはよくわからないし、別ルートの話もありまして、別ルートの何か対策ができているのかどうかというのも、できていなと思うんです。

だから、もう少しこれを受けとめながら、それぞれの部門という話はありましたけども、県として、やっぱり県民の皆さん、あそこの渋滞は特に困っていると思いますので、そこに向けて何らかの具体的な改善をやっていくべきだと思いますけど、その点いかがでしょうか。

○内田都市計画課長 先ほど申しましたとおり、アクションプログラムに基づきまして、それぞれの事業者がしっかりとこの行動計画に基づいて、それぞれの役割分担を果たすということでやっていくしかないというふうに思っております。

それと、今パーソントリップ調査を今年度調査しましたというお話をしましたけど、来年度、現況分析なり将来交通需要予測を行いまして、26年度に都市交通全体のマスタープランをつくろうと思っています。その中で今委員がおっしゃったようなことも含めまして、しっかりとそういった課題につきまして対応していくことで考えてまいりたいというふうに思います。

○鎌田聰委員 ぜひしっかりと受けとめていただいて、特にこういった成果が、せっかく成果チェックした、上がっていなければ何らかの手を打たなんというのは当然のことですから、パーソントリップ調査も今取りまとめ

られていると思いますので、そことあわせて改善に向けてしっかり汗をかいていただきたいなと思います。

以上です。

○山本秀久委員 国際線の振興の点についてお尋ねします。

今まで再々こういって、中国、台湾、韓国とかいろいろ冷え切っている状態のことを、私今こうやって見ていると、県立高等学校のチャーター便とかなんかが1校しかないということはどういうことか、そういう点の波及効果の努力はしよるのかどうか、あるいは民間人の文化的なこういう教育分析の場からそういうルートを開くことはできないものか、そういう努力があるているのか、それが1つ。

今度は坂本課長に。「くまモン」のスケジュールはああたのほうで決めているわけ、いろんなやつは。そういうときに、いろんな福祉関係とか教育のほうにも目を向けたらどうなのかという感じがするわけだ。ただ商品だけに、熊本の商品だけにレッテルをはっている。それだけ効果が出てきているのならば、もうちょっとあらゆる面に幅広く、教育問題、福祉関係、いろいろな問題に対して波及効果が出るんじゃないかなという感じがするわけです。

その2つ。

○中川交通政策課長 交通政策課でございます。まず1点目の修学旅行等の取り組み、これは私ども国際線の振興の立場からいいましても、一番効果的な手法だと思っておりまして、ここ数年前から県立学校校長会、それから私学校長会、直近でいきますと私学のPTAの会まで足を運びまして、ぜひ御検討くださいと。

それは単にソウル線を使ってくれということではなくて、ルートを使って、乗り継ぎでも

いいから外国との交流を深めて、外から日本を見るほうが絶対勉強になるんだという点で御説明いたしておりまして、その少し後になりました、大津高校の当時の校長先生からお話をありますて、ぜひ自分たちはブレークスルーしたいということで、一昨年前に実現したのがまず1本でございます。

その後も少しずつ韓国とのほうの交流を深めたいということで、県立高校の動き等ありましたけれども、残念ながらちょうどそのタイミングで延坪島の砲撃等がありまして、かなり保護者の方が不安になられてそのときは実現しておりませんが、私ども引き続き取り組みをしっかりやっていきたいと思います。

以上でございます。

○山本秀久委員 そういう若者のルートをなるだけ利用して文化的な交流を深めていけば、いろんな問題は変わってくると私は思うんです。ただ、それを萎縮して考えとったってしようがないんじゃないかと、もうちょっと幅広く知恵を出してやつたらどうかと、そういう意味です。それをひとつ……。

○坂本くまもとブランド課長 山本委員からおっしゃっていただいた部分は大事なことだと思っておりまして、例えば、熊本にいるくまモン隊については、できるだけ福祉とか、そういう教育施設に回すように努めております。

もう一つは、教育庁だとか健康福祉部等も連携をさせていただいて、例えば教育の場で「くまモン」がどう使えるのかとか、そういうこともあわせて今検討をさせていただいております。

授業の副読本なんかに「くまモン」を載せて、その中でうまくやっていくとか、そういうことの検討も教育庁のほうと進めさせていただいておりますので、徐々にそういう形で努力させていただきたいと思っております。

○山本秀久委員 私が前に礼儀作法の問題を言ったことがある。あれはなぜかというと、そういう格好が生まれてくるだろうと、だからそういうけじめをきちっとしとけば、いろんな分野にそれがぽつと入っていける要素が生まれはせぬかという意味だったわけだ。けなしたわけではないんだ。だから、それが何かしらぬけど妙なふうになってしまってね。

(笑声) おれが言つた趣旨と違った方向に新聞に載ったということだ。

今になって、こうやってあれだけ普及してくると、いろんな角度にそういうものが生きてくるんだという意味合いを言ったから、最初からちゃんとけじめをつけてやつとてはどうだということで言ったわけだ。それが後になって役立つという意味で言ったことなんだ。そういうことです。——わかった。

○岩下栄一委員 さっき小杉委員からの提言がありましたけど、中国からの入り込み客が激減するというのは、これは一つの事実として受けとめんといかぬけども、今中国から熊本に留学生が500人ぐらい来ていますね。その留学生に対して熊本をアピールしていくというか、そういう作業があれば、彼らが自分の国にネットやらいろいろ手紙やらで、熊本でいいよいう何というか通知をするんですね。その留学生を活用する方法というのは何かないかなというふうに思うわけです。約500人、崇城、熊大……。

○小原観光課長 現在、私の手元にある統計では、県内に留学生570名ほどおります、全体で。そのうちの中国が350人ということで、やはり熊大を中心に崇城大等たくさんの中の学生さんがおられます。

実際、既にこの前、八代港に入港した大型クルーズ船のときも通訳が足りませんでしたので、そういう留学生の方々にも有償ボラ

ンティアという形でお願いしたりしております
すし、あるいはいろんな面で、今新たにホー
ムページの海外向けの中国語、韓国語、英語
というふうにつくっておるんですが、そうい
った海外のホームページをつくるときも、日
本人の視点でつくってもどうしてもピントが
ずれてしまうことがあるので、そういったと
ころに関しましても、大学の先生それから留
学生——中国の留学生、韓国の留学生、台湾
の留学生に来ていただいて、いろんな意見を
言っていただいて、作成先に反映させていた
だいていいるという状況でございます。

今後も、この留学生の方々をいろんな方面で活用させていただいて、観光のインバウンドに役立てていきたいというふうに考えております。

○岩下栄一委員 先般、春節祝賀会に中国人留学生を100人招待したんです。この人たちはそれぞれみんな熊本大好き人間になって一一招待しましたけど、やっぱり自分の国に、親御さんとかいろんなところにそういうことを伝えていってくれるかなと。留学生を大いに活用してください。

それともう一つ。

○錦織企画振興部長 企画課の担当になりますけれども、現在、熊本市と県とそれから大学のコンソーシアムという連合体がございまして、この3者で熊本都市戦略会議というのをやっております。その中でも、委員おっしゃるとおりの、留学生をふやしていくと同時にどうやって活用していくかという論議をやっておりますので、今それの具体策を詰めておるところでございます。

以上です。

○岩下栄一委員 済みません。さっきから「くまモン」の話が随分出て、今県庁で「くまモン」以上に活躍している人はいないんじ

やないかなという感じがありますけど、「くまモン」あての年賀状が来ていますかね、正月は。何通ぐらい来ていますか。

○坂本くまもとブランド推進課長 4,000通
来ております。すべてお返事を返しております。
すべて手書きで返しました。

(「偉い」と呼ぶ者あり)

○岩下栄一委員 職員みんなで書くんですか。

○坂本くまもとブランド推進課長 委託先もありますので、協力してやっております。

○泉広幸委員 先ほどから、どこに行っても「くまモン」「くまモン」の話。きょうもその「くまモン」ばかりなんです。やはり「くまモン」の活躍には、日ごろから私も敬意を表しております。それに比べてなかなか進まないのが、幹線道路あたりなんですよ。(笑声) やはりここで「くまモン」にこれは要望活動に行ってもらったほうが早くいくのかなと、これは余談ですけども、やはり「くまモン」に負けないようにひとつ船原土木部長、幹線道路の件、よろしくお願ひをいたします。何かコメントがあれば、よろしくお願ひします。

○船原土木部長 幹線道路の整備、予算と時間をしておりますが、着実に一歩ずつ進めたいと思っております。

以上です。

○井手順雄委員長 これで質疑を終了いたしました。

次に、議題(2)閉会中の継続審査についてお諮りします。

本委員会に付託の調査事件については、審査未了のため、次期定例会まで本委員会を存続して審査する旨、議長に申し出ることとし

てよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○井手順雄委員長 異議なしと認め、そのようにいたします。

その他として何かありませんでしょうか。

亀田課長に質問いたします。

今後の維持、いわゆる県道、国道等々の維持修繕というようなことでは、今後いろいろ注意をされておりまますし、今度の経済対策においてもそういったところに予算がついたと、トンネルにしろやっぱりそういう新規事業というか、継続した事業とあわせてそういった補修事業、そのあたりはどう県は考えておられるのか。総体的な意見として、最後にひとつお願ひいたします。

○亀田道路保全課長 私のほうから答えるような内容じゃないかもしれませんけど、本来ならば船原部長のほうから答えていただいたほうがいいかと思うんですが、委員長が今おっしゃいましたように、今回の経済対策の補正におきましても、道路ストックの総点検を始め、今後の社会資本のいわゆる老朽化に対する本格的な取り組みを、国・県・市町村一体となってやらんといかぬということがいわれておりますし、予算的にも今後、そういった維持管理の予算をかなり国のほうも面倒見てくれるのだろうと思っております。

私どももそれに呼応する形で、やはり利用者の安全を第一に考えまして、計画的な維持管理体制あるいは執行、そういったことをしっかりと努めてまいりたいと考えておりますので、委員の皆様方におかれましても、ぜひ御支援のほどをよろしくお願いしたいと思います。

○井手順雄委員長 わかりました。

ほかになければ、これで本日の議題は終了いたしますが……。

ここで、委員会最後となります。1年間、

池田副委員長とともに議事進行してまいりましたけれども、委員の皆様方、また執行部の皆さん方の御協力によりまして、スムーズに終了することができました。本当にありがとうございました。

今後もひとつ御指導・御鞭撻のほどをよろしくお願ひいたします、御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。（拍手）

それでは、これをもちまして、本日の委員会を閉会いたします。

午前11時37分閉会

熊本県議会委員会条例第29条の規定によりここに署名する

高速交通及び新幹線活用対策特別委員会
委員長